

森と木へのこだわり

清流通信の読者のみなさん、こんにちは。

今回は、森と木にこだわる梶原町の「木の里づくり」についてご紹介いたします。

四万十川源流域に位置する梶原町は、豊かな水をつくりだすことを使命として、森林に関する施策を進めています。その代表格が、平成12年9月に制定した「森づくり基本条例」です。この条例に基づき、健全な森づくりのための間伐作業に対し、1ヘクタール当たり10万円という独自の補助を実施しています。なお、その財源は、平成11年に「四国カルスト」に設置した風力発電により確保しています。

また、平成12年10月には、梶原町森林組合が、環境保全に配慮した森林経営に対して与えられるFSC認証を取得（団体としては国内初）しました。森づくりを進めるためには、木を使うことが必要です。この認証を受けた森林から生産される木材に新たな付加価値が生まれました。このFSC材は、学校体育館や幼稚園など、公共建築物に積極的に用いられています。今春には、三嶋神社前の四万十川支流・梶原川に“屋根付き木造歩道橋”が完成。新たな町の名所となりそうです。

同町はこの他にも、森林の樹種や管理の違いによる保水力の調査を、高知大学と共同で平成12年から行っています。ならびに、芹川山の国有林をモデルに、平成11年3月「四万十源流森林管理協定」を締結し、広葉樹と針葉樹が混在する複層林づくりを進めています。

森と川は切っても切れない関係。森の土壌が豊かな水を育み、川を流れ、海にそそいでいます。「木の里づくり」に取り組んでいる梶原町。木を使うことは森づくりへとつながり、森は豊かな水になくってはならないものです。皆さんもこういった森づくりに対して、ご理解、ご協力をお願いします。

梶原町のホームページ→<http://www.town.yusuhara.kochi.jp/>



風力発電



屋根付き木造歩道橋

Topics

四万十・流域圏学会のご案内

四万十・流域圏学会の第2回学術研究発表会が開催されます。

●日時:6月1日(土)10時～/6月2日(日)9時～ ●場所:高知県立高知女子大学ほか
 <お問い合わせ>

四万十・流域圏学会事務局(高知工科大学村上研究室) TEL0887-57-2418

高知県文化環境部文化環境政策課 四万十川流域振興室 TEL088-823-9795